

1. まず始めに

実践を積み重ねることが重要、BP スタイルでもジャッジの根本は変わらない、自分のスタイルはあって良いけどそれでも絶対に守らなきゃいけないことはある、ディベートのレクチャーは基本的に個人的なことを基にしているのでクリティカルに聞いてほしい

2. ジャッジの役割

順位を出すこと、RFD を説明すること、建設的コメントを伝えること

3. 心構え

責任ある立場に置かれていることを忘れない、ARP であること、客観的であること、包括的かつ具体的であること

4. ジャッジの流れ

ラウンド終了→順位と RFD の用意→ディスカッション→順位と点数の決定→Oral Adjudication→フィードバックシートの記入と提出

5. 順位の出し方

基準は決まっていますがその比率はラウンドによって変わる、議論の優劣、ラウンドへの貢献度、ロールフルフィルメントを包括的に、あくまでチームを比較して相対的に

6. RFD の説明の仕方

ラウンドの全体的な印象、順位、各チーム間の差、全ての議論に言及はできない＝主にみた点を説明する、なるべく具体的に議論を追う、バランスの取れた説明をする、(考慮もしくは評価しなかった議論があった場合はその理由を説明する)

7. 特に直面する問題

Extension の基準、Whip の評価の仕方、Principle & Practical の評価、BP の構造的な問題、POI の評価、ラウンドが終わってからでは時間がない

8. ディスカッションについて

目的：1つの順位・RFD・スピーカースコアの合意に達すること、心構え：自分の考えを説明すること・相手の意見を聞くこと・考えをかえる柔軟性をもつこと、流れ：パネルがそれぞれの順位と RFD を説明する→チェアが自分の順位と RFD を説明、チェアの役割：司会進行を行う・パネルの意見にしっかりと耳を傾ける・議論しなければならない争点を見極める、パネルの役割：チェアのもとで合意形成に貢献すること、合意への道：コンセンサスの順位は後回しにして、順位が違うチームを争点とする（それぞれがバラバラの順位の場合は、認識のズレの原因となっているものを特定する）

9. 個人的に思うこと

ラウンドで言われたことだけしか考慮しないジャッジは不十分